

# 地球環境の変動に応じた新しい地震対策を考えるセミナーのご案内

今世紀に入り、毎年のように、従来の統計を数倍上回る豪雨、台風、地震、洪水、土石流、火砕流等が発生し、多くの人命と財産が失われています。昨年からは、これに新たな感染症が加わりました。各種の統計から、21世紀末には、気温、海面温度がさらに上昇し、生活と産業に壊滅的な被害を生ずると予測されています。一方で、地震、洪水等の想定と対策には、1980年代に作られた基準が依然として踏襲されています。地震予知はできないことは明らかになりましたが、同様に、気候変動も制御できないと考えています。現在の地震、洪水等は、すでに、20世紀の想定を大幅に上回る大きさや頻度であり、さらに年々厳しくなることを前提として、建物、インフラ施設、都市に対して、新たに総合的な災害対策を講じない限り、被害はさらに大きく壊滅的なものになりかねないと考えられます。

新耐震基準は大地震に対しては、使えなくなってもよい、倒壊しなければよいという基準です。最近の研究によれば、東京、大阪などの大都市では、地震後に使用できない建物施設が林立する結果、群衆雪崩、未治療死、通電火災、火災旋風、地震洪水などの間接被害が続々と発生し、多数の人命が失われるとのこと。熊本地震では、耐震化率100%の熊本市周辺において、病院、避難所が使用できなくなったことによる災害関連死が直接死の4倍を超える事態となりました。20世紀の想定と対策では追い付かないことは明らかです。

本セミナーでは、新しい災害対策の一例として、しなやかな弾性材料を用いる補強技術SRFと、GPSを備えた高性能計測器を多数用いる診断技術(MTD)をご紹介します。適用事例、東日本大震災、熊本地震等での実証についてご報告します。切迫する直下型地震、海洋型の巨大地震に対して、今できる対策を見出し実施することにつながり、将来に向けて、総合的な災害対策、新たな街と国の姿をお考えいただく機会となることを願っております。

日時

2021年8月26日(木)  
セミナー：13:30～14:30  
個別相談：14:40～

開催方法

オンライン(ZOOM)

申込方法

当社ホームページの専用フォームよりお申込みください。  
お申込みはこちら [https://www.sqa.co.jp/opinion/online\\_seminar\\_form.html](https://www.sqa.co.jp/opinion/online_seminar_form.html)

ご案内

当社ホームページより過去開催分をご視聴いただけます。  
ご視聴はこちら [https://www.sqa.co.jp/opinion/seminar\\_application.html](https://www.sqa.co.jp/opinion/seminar_application.html)



講師  
構造品質保証研究所株式会社  
代表取締役社長

**五十嵐 俊一**

工学博士  
日本建築学会会員  
地盤工学会正会員  
コンクリート工学協会正会員

